

# 防災訓練で自衛隊の必要性をアピール



装備品展示に喜ぶ来場者（大和市立渋谷小学校）

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山3海佐）は、8月25日（土）、大和市が主催する平成30年度大和市「防災フェスタ2018」に参加した。気温30度を超える真夏日の中、多くの来場者で賑わった会場では、災害派遣活動を写した防災パネルと戦闘糧食の展示を行い、多くの来場者の関心を惹いていた。戦闘糧食を手にとった来場者は「味はどうですか？」「いろいろなメニューがあるんですね」など、興味津々の様子で広報官の説明に耳を傾けていた。

また、近年は災害発生頻度が特に多いことから、来場者の災害への関心度は非常に高く、7月に発生した西日本豪雨における自衛隊の災害派遣活動を展示した防災パネルの前では多くの来場者が立ち止まり、自衛隊の活動の様子を一つ一つ確認し、理解を深めていた。

来場者からは「災害はごく身近に、また時を選ばず起こるので、自衛隊の存在はとても頼もしい」「人命救助だけでなく、入浴などの生活支援までされているので、ありがとうございます」など、感謝と労いの声を聞くことができ、自衛隊の必要性をPRすることができた。

厚木募集案内所は、「今後も、防災訓練等を通じて自衛隊の活動や必要性を積極的にPRし、募集及び防衛基盤の拡充に努めていく」としている。

## 平成30年度第2回神奈川地本広報センターイベント 「潜水艦見学ツアー」開催

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本貢祐一海佐）は、9月8日（土）広報センターイベントとして「自衛隊艦艇見学ツアー」を実施した。同イベントは、広報センターを広く周知する目的で行っており、HPや広報センターで公募した。当日は募集対象者を含めた15名が参加した。

広報センターにて自衛隊ビデオを鑑賞した後、横須賀市に所在する海上自衛隊第2潜水艦群へ向かい、潜水艦「せとしお」を見学した。

見学者は、高校進路指導の先生を含めた15名で、横須賀までの車中では、友達同士で来た高校2年生が「早く着かないかな」「潜水艦の中が見られるみたいだ」と到着前から胸を弾ませていた。

「せとしお」では3グループに分かれ、それぞれ班毎に狭い中央ハッチから直角のはしごを恐る恐る艦内へと降りていった。

艦内では、ベテランの海上自衛官から潜水艦の任務や艦内での生活など詳しい説明を受けた。また、潜望鏡が覗けると聞いて目を輝かせ我先にと潜望鏡からの眺めを楽しんだ後は、艦内案内が始まると隊員が実際に寝るベッドに横たわってもみたりしていた。

参加者の学生達が、家庭のトイレに比べ艦内にあるトイレの狭さにとても驚いており、それぞれの見学内容を話しながら嬉しそうに話しているのが印象的であった。

艦外に出て「最後に何か聞きたいことがありますか」との質問に「航海中に選挙があった場合、投票はどうするのですか」「入港して一番したいことは何ですか」などリアルな質問も飛び交い、海上自衛官から一つ一つ質問に対する丁寧な回答に興味津々の面持ちで耳を澄まして聞いていた。

神奈川地本では、「趣向を凝らしたイベントを定期的に企画することで、広報センターを周知し、来館者の増加、募集基盤及び防衛基盤の拡充につなげていきたい」としている。



二隻並んだ潜水艦の前で記念撮影



手前の潜水艦「せとしお」に向かう参加者



潜水艦の説明を熱心に聴く参加者